

1. はじめに

2016 年も早 1 ヶ月が過ぎました。私の住んでいるインディアナ州は、1 月に入ってから気温が -10 度を下回る日が多くなりました。そのため、学内にある大きな池が凍りその上を歩くことができます。写真 1 に池の様子を示します。外気温が -10 度以下であっても私の住んでいるアパートメントや教室は暖かく保たれており、現在でも半袖や半ズボンで登校するアメリカ人の学生を見かけます。



写真 1 学内にある池の様子

2. RHIT での生活

2.1. 履修科目

現在私は 4 科目を履修しています。それぞれの科目の詳細を以下に示します。

- Construction Engineering (建設工学)

この科目ではガントチャート、クリティカルパス法やキャッシュフローの作成方法を学んでいます。また、1 日に利用可能な作業員や機材の上限に合わせてスケジュールを変更する方法や、それぞれの工程のコストと工期を短縮した場合の追加コストが指定され、どの工程を短縮すると費用対効果が高いかを考える問題もあります。毎週課題が出題され、工程スケジュールを作成する基本的な課題から、実際に行われた工事を採り工事の特徴を論述する問題など様々な課題が出題されます。

- Structural Design-Concrete I (コンクリート構造設計)

この科目ではコンクリート梁やスラブの設計方法を学んでいます。荷重の位置、重さやコンクリートの種類が指定され、安全基準以上になるように梁の設計を行います。この科目にはグループ活動があり、先日はコンクリートの補強材を選択するという課題に取り組みました。課題では鉄の使用が禁止されていたため、私のグループは木材とワイヤーを選択しました。写真 2 のような強度実験をそれぞれの試験片で行い、実験結果やコスト等様々な観点から補強材を選択しレポートにまとめました。



写真 2 引張試験の様子

- Cost Engineering (原価工学)

この科目では建物に使用されている部材の数量を算出する方法を学んでいます。主に授業ではコンクリート、鉄、掘削土、ブロック、モルタル、塗料や配管など様々な建築部材の長さや量の計算方法、表し方等を学んでいます。アメリカではヤードポンド法や米トンが使われているため今でも戸惑うことがあります。グループ活動では2階建ての消防署の平面図、立面図や詳細図を見て各部材の数量を算出しています。基本的にそれぞれのメンバーが担当する部材を決めて計算し、徐々に建物全体の算出を行っています。

- College English (アカデミック英語)

この科目は英語を母国語としない学生のための英語の科目です。毎週金曜日の授業ではペアで調べた記事について30分の授業を展開する時間があります。私の担当が1月中旬にあり、ペアの中国人の学生とBBCで見つけた記事について発表を行いました。事前に先生やチューターの学生と相談して準備することが求められているため、準備にかなりの時間が必要でした。

1月中旬に全ての科目で中間試験がありました。また、グループ活動のメンバーは活動に積極的にRHITの学生は課題に熱心に取り組んでいると感じています。

2.2. キャリアフェア

1月中旬にRHITの学生を対象としたキャリアフェアが学内で開催されました。約100社の企業と多くの学生が参加していました。ルームメイトもキャリアフェアの翌日にはインタビューを受けに行っていました。そこで、RHITの学生がどのような企業に就職し、初任給はどのくらいなのかについて考えてみます。RHITには様々な学科がありますが、土木工学科では地元やアメリカ全土の企業に就職しています。しかし中国人の友人に聞いたところ、留学生はグリーンカードを持っていないければ就職先が限られてしまいます。2015年のRHITのレポートでは土木学科の卒業生34人のうち25人が就職、9人が大学院進学で就職率は100%でした。また、初年時の平均年収は\$58,159です。アメリカと日本の物価の違いはありますが、初任給が日本よりも高いように感じます。

2.3. ダブルメジャー

先日ルームメイトとスイートメイトと話をしていた時、スイートメイトはダブルメジャーなので基本的にグループ活動のために休みである水曜日にも授業があると言っていました。私は、主専攻の他に副専攻を持つマイナーメジャー制度は一般的なので知っていたのですが、主専攻を同時に2つ持つことができる制度は知りませんでした。ダブルメジャー制度では2つの全く異なる主専攻を持つことができます。しかし、2つの専攻分野が大きく異なるとそれだけ多くの科目を履修する必要があります。そのため、彼のように化学と化学工学といった近い2つの主専攻を持つことが多いようです。この場合、一般的な卒業単位約190単位に追加で50単位程多く取ることで2つの専攻を卒業することが可能です。また、このダブルメジャーを行う学生はRHITでは珍しくないそうです。

2.4. 学生の目的意識

一緒にグループ活動を行っている学生やルームメイト、スイートメイトを見ていると多くのRHITの学生は高い目的意識を持って勉強に取り組んでいるように感じます。そこで、RHITの学生の入学時の学識レベルについて考えてみます。アメリカではSATと呼ばれる大学進学適性試験があり、この試験はアメリカ国内で一番広く大学受験に使用されている試験です。SATはCritical Reading、WritingとMathematicsの3科目に分かれており各800点満点、合計2400点満点となっています。この他にもACTと呼ばれる試験も一般的です。RHITの学生の入学時の平均データはCritical

Reading が 610 点、Writing が 590 点、Mathematics が 700 点の合計 1900 点です。この点数は全体の受験者の上位 7% です。また平均 GPA は 3.96 です。高校の GPA システムは基本的に最高が 4 です。しかし、高校の中でも大学相当の内容の応用科目は最高値が 5 となっているため、ルームメイトは入学時に GPA が 4 以上あったと言っていました。また、アメリカの履歴書には基本的に大学の GAP を記入します。これは企業が GPA を大きな判断材料にしているからです。このようなことから、RHIT の学生は大学生活でも積極的に勉強や課題に取り組み、高い GPA を保つ努力をするのではないかと考えます。

3. おわりに

留学生活も残り 2 週間となりました。毎日忙しい日々を過ごしていますが、徐々に帰国の準備も始めていきたいと思えます。しかし、まだ 2 週間あるので最後まで有意義な時間を過ごし、たくさんやり残しを残して、将来アメリカに来る機会があればその時に達成できるようにしたいです。

以上で 1 月分の月例報告を終わります。

参考文献

(1). “Class of 2015 Placement and Salary Report Overview.”

(<http://www.rose-hulman.edu/media/1772444/class-of-2015-overview.pdf>).

(2). “Rose-Hulman Facts About Admissions.”

(<http://www.rose-hulman.edu/admissions-financial-aid/facts-about-admissions/freshman-profile.aspx>).